

## No.6 問いを持つこと

今回は、「問いを持つこと」についての情報提供をします。

ダイアログを行うことに限らず、自分の人生を生きていくために「問い」を持つことは必要不可欠で「問い」があるからこそ、いろんな出来事から気づきや学びを得ることができます。「問い」は実は、言葉にしなくてもあなたの中に存在しているもので、でもそれを言葉にすることで人の行動は大きく変わってくるのです。

ダイアログを日常に取り入れて、自分という人生を歩みたい人が足を踏み出せる、この資料がそんなきっかけになれば嬉しいです。

私が実際にダイアログをしていて感じることもなのですが、「問い」がハッキリしている人と、ふわっとしている人とでは、その時の気づきに大きく違いがあるのです。「問い」はダイアログの場をつくるにあたって、とても重要なものであり、きちんと「問い」を持つかどうかダイアログの質を決めるといっても過言ではありません。

「問い」の重要性はダイアログの場だけでなくすべての場に通ずることだと私は思っています。学びの場でもスポーツの場でも、すべての場に必ず自分と向きあうタイミングがあり、それをより良いものにするのが「問い」だと思うので。

人は必ず自分のことを守りたくて、知らず知らずに鎧を着たり、壁をつくってみたり。人から「あなたには壁を感じるね」なんて言われると、とても悪いもののように思ってしまう場合も多いでしょうが、壁や鎧は内側にある大切なものを守るためのもの。なので、守りたい自分を守っていることは、とても自然なことです。でも、その守りたい自分にきちんと目を向けられるかどうか、それによって大きな違いが出てきます。

自分自身がどうありたいのか、固めにいうとそれを示してくれるのが「問い」な訳で、言い方を変えると、守りたい自分に目を向けることを「問い」を通じて行っていきます。それには「問い」だけでなく他人が必要で、ダイアログなどの時間を通じて、自分と相手の違いの中から自分に目を向けていけるのです。

自分が「問い」を持てばおのずと自分自身に目を向けられる機会が増えてきます。そのための出来事たちに対してアンテナが立つので。繰り返しますが、それには自分以外の存在があるからこそ、見えるものです。

その自分以外の存在と「問い」に目を向けることなく過ごしていると、どんどん他の存在に流されて、自分を失ってしまうのかもしれませんが。「問い」をもつこと、それは自分の想いを言葉やカタチに変えていくものだとは私は思っています。ちなみにその「問い」は疑問文である必要はありません。

今回は「持つこと」にフォーカスして文章を書いているので「持ち方」は別の機会に説明しますが、とても簡単に言うと「私はサッカー選手になりたい」や「私は世界を旅する」ということも、覚悟の違いはあれども「問い」であることには違いありません。それに日々生活していくなかで起きる問題なんてまさに「問い」で、題(テーマ)を問われている訳です。

他のテーマでも同じことを言いましたが、ダイアログの場をつくる生活続けている中で、正しさの反対は正しさなのだと思うことがとても多いです。この言い方をすると反対側の意味を持つ間違いも、間違いの反対は間違いと言うことができます。例えば人と人の間に合意された基準がない限り、どちらが正しいなんて計れない訳です。

例えば、30年間、人にモノを与えることが当たり前な世界に生きた人と、同じく30年間、人のモノを奪うことが当たり前な世界に生きた人とが、お互いの世界の真ん中にある中立な場所で話をしたとします。他の価値観は共感できるものも多いかもしれませんが、でも人にモノを与えることと人のモノを奪うことの話になった時にどちらが正しいと判断するのでしょうか。もし第三者が現れたとして、何を持ってそれが正しいと判断するのでしょうか。

まだ漠然とした意見ではありますが、それを乗り越えるのも「問い」なのだと感じます。今の日本を例に挙げるとしたら、原発を推進する人たちと反対する人たち、これは上記の正しさの押し付けあいだなと私は思います。しっかりとアピールを続けていけばそれぞれの味方を増やしていくことはできるのかもしれませんが、根本的解決に至るのでしょうか。同じように戦争反対と言いながら戦争を押し進める人と戦っている状態で、本当に戦争はなくなるのでしょうか。

お互いの正しさを主張しあい、どちらが正しいのかと議論するディスカッションも自分たちの想いを確認するには時に必要だと思いますが、それよりも正しいとか間違いとかではない、私や私たちが手に入れたい状態をハッキリと言葉にして、それを“問い”として人と話すことの方が、根本的な解決に向かうのではないかと私は思っています。

何度「問い」を作ってもより良い「問い」を作ることにおいて満足することなんてなくて、これから先も可能性は無限に広がっています。“問い”の作り方についてはまた別の機会にお話しさせていただきますが、まずは守りたい自分に目を向けること、それが大切だといつも思っています。そこに目を向けられると、おのずと良い“問い”に変わっていくでしょうね。

「良い問いには答えが含まれている」これはある機会に耳にして以来、私が「問い」をつくる時に意識している言葉です。自分にとって良い「問い」を言葉にした途端にその答えがなんとなく見えてくる、または答えが見つかりそうな確信を得るという体験を何度も繰り返してきました。その反面、ダイアログの場において表面上な「問い」しか作れず、答えにふれることができない人にも出逢ってきました。

もっと多くの方が本音の「問い」を言葉にできる、そんな環境が広がっていくと良いなと思っています。そんな環境がある世界の向こうには、どんな未来が待っているのでしょうか。そんなテーマのダイアログの場をつくるのもいいかもしれませんね。

今回は「No.6 問いを持つこと」のお話をしました。次回は「No.7 問いの持ち方」の話をします。

ダイアログのススメは、ダイアログを日常に取り入れたり、ダイアログの場をつくったりする仲間たちと一緒にダイアログを学び合うためのコミュニティです。僕も含めたメンバーそれぞれが実践し、それを共有し合いながらまた実践し、それによってダイアログへの理解をより深めていく、そんな環境をつくるために一歩一歩進んでいるところです。

ぜひメンバーと一緒に、ダイアログ学び合う環境をつくっていきましょう。

ダイアログの教科書 No.6 問いを持つこと

投稿日 2014/10/01・最終更新日 2015/06/05

発行 COBAKEN LIFESTYLE LABO <http://cobaken.net>